

第3回 最上川流域治水協議会

議事概要

日時：令和3年3月2日（火） 14時00分 ～ 15時15分

場所：山形河川国道事務所 2階大会議室（WEB会議）

構成員出席者：山形市長（代理：都市整備次長（兼）河川整備課長）、米沢市長（代理：市民環境部環境生活課危機管理主査）、鶴岡市長（代理：防災安全課長）、酒田市長（代理：危機管理課長補佐）、新庄市長、寒河江市長（代理：防災危機管理課長）、上山市長（代理：庶務課危機管理室副主幹兼室長）、村山市長、長井市長（代理：危機管理主幹）、天童市長（代理：総務部危機管理室長）、東根市長（代理：総務部危機管理室長）、尾花沢市長（代理：防災危機管理室長補佐）、南陽市長、山辺町長、中山町長、河北町長、朝日町長（代理：総務課危機管理係長）、大江町長（代理：総務課課長補佐）、大石田町長、金山町長（代理：町民税務課課長補佐）、最上町長、舟形町長、真室川町長、鮭川村長、戸沢村長、高畠町長（代理：危機管理室長）、川西町長（代理：総務課危機管理専門員）、小国町長（代理：町民税務課町民生活担当係長）、白鷹町長、飯豊町長（代理：総務課防災管財室長）、三川町長、農林水産省東北農政局西奥羽土地改良調査管理事務所長（代理：村山北部支所長）、林野庁東北森林管理局山形森林管理署長（代理：次長）、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター東北北海道整備局長（代理：山形水源林整備事務所長）、気象庁山形地方气象台長、山形県防災くらし安心部防災危機管理課長、山形県農林水産部農村整備課長（代理：課長補佐）、山形県農林水産部森林ノミクス推進課長（代理：課長補佐）、山形県県土整備部都市計画課長、山形県県土整備部下水道課長、山形県県土整備部河川課長、山形県県土整備部砂防・災害対策課長、山形県県土整備部建築住宅課長、山形県最上総合支庁建設部長、山形県置賜総合支庁建設部長、山形県庄内総合支庁建設部長、山形県企業局電気事業課長（代理：電気事業課課長補佐）、最上川中流土地改良区理事長（代理：管理課長）、東北電力株式会社山形発電技術センター所長、東北電力株式会社庄内発電技術センター所長、山形河川国道事務所長、酒田河川国道事務所長、新庄河川事務所長、最上川ダム統合管理事務所長（代理：副所長（技術））

報道機関：山形新聞社、朝日新聞社、建設新聞社、毎日新聞社、NHK山形放送局、さくらんぼテレビジョン、山形放送、山形テレビ

議事概要：

<流域治水プロジェクト（案）について>

【事務局】

- ◆ 流域治水プロジェクトについては、現在取りまとめ中の資料となっている。

【構成員】

- 今後、公表した後、予算・財源確保ともにフォローアップが大事になってくる。
- ダムの事前放流を計画的に実施し、流量調整することにより、下流域における大きな被害を防げると思う。
- これまで幹事会等を通じて多くの意見を提案させていただいている経緯があり、今回の資料は、非常に各機関の取り組みを網羅されているものと感じている。
- 今後の最上川流域治水宣言に向けて更なる内容整理を図っていただきたい。
- 地域住民は、情報を待っているなので、方向を見せたい。

<最上川流域治水宣言（案）について>

【事務局】

- ◆ 「流域治水」を進めていく上で、最上川流域のあらゆる機関が協働して、取り組んでいくという姿勢、意気込みを対外的に示すことが重要と考える。
- ◆ 最上川流域治水協議会として、その趣旨や狙いを盛り込んだ「流域治水宣言」を対外的に表明することにより、流域の一体感を示したいと考え、今回、事務局より宣言の案として提案する。

【構成員】

- 「確実な避難のため、市町村間の連携を密にして広域的な避難体制をつくる。」という項目があるが、市町村間のみではなく、山形県においても広域的な役割を果たしていただきたい。
- 宣言の取り組みについては、大変良いことだと考えるが、ただ誰に対して宣言をするのか明確にすべきと考える。
- 流域住民に対して宣言するものであれば、内容的に一般の方々にわかりにくい表現となっているので、もう少し一般の方々がわかりやすい言葉でシンプル形でも良いのではと思う。
- 「令和2年7月豪雨を踏まえた新たな水位低下対策」という項目が相当期待されている部分と思う。水位低下対策というものは、早急に実施していただくことで、地域住民の安心度が増加に繋がっていくと思う。
- 水位低下対策については、流域に降った雨を地域に貯留するといった農地、田んぼダムを活用した内容となるかと思うが、この内容について地域住民の理解が必要であるので周知方法を考えなければならない。
- 田んぼダムについて、補償することを前提で考えるべき。

- 作付けの補償について、しっかり話をすることで地域の安全安心に住民から協力・理解してもらおうよう、話し合いをしていくことが大切。
- 宣言については、地域住民に対して発言していくとともに、国に対しても発言していかなければならないと思う。従って、文章としては、同じものではなく、住民向けにやさしい言葉の宣言、国向けに硬い文章の宣言と別になっても良いと思う。
- 住民に発する前に具体的な整備内容や計画を事前にお知らせいただきたい。
- 来年度、土地改良や農家の方からも同意を得られ、田んぼダムの整備を行う。
- 上流で降った雨を上流市町村でどれだけ貯留できるかが大事。
- 貯留施設の整備に関する負担について、国からも御理解と御尽力いただきたい。
- 最上川流域市町村が置かれている立場、環境を地域住民にわかりやすく位置づけることが大事。
- 上流から下流までの流域治水対策は、地域住民の安全安心につながる。支川の対応についてもお願いしたい。
- 土砂堆積が多く、河床も変わっており、注意報や警報が出る状況と現地の状況にずれが生じてきている。町管理河川について部分的な河道掘削を予定しており、下流域とのバランスを考えながら進めていきたい。町の87%の森林から流れ込む水をどのようにコントロールするか森林整備計画を立てていく。
- 災害時に、重要と感じるのは情報力であり、地元だけではすべての情報を集めることができず、国や県から情報をいただけることは大変ありがたい。
- 顔の見える協力体制をお願いしたい。

<今後の進め方について>

【事務局】

- ◆ 本日第3回の流域治水協議会を開催したところであり、本協議会で現在取りまとめているプロジェクトの内容について、年度末の公表に向け、調整させていただきたい。
- ◆ 年度末に公表された流域治水プロジェクトについては、毎年協議会の中で進捗状況を確認、共有していくことで考えている。

【構成員】

- 治水対策と砂防事業、森林整備との一体的な整備の調整連絡会議があっても良いと思う。